

学校と動静脈企業の連携体制でステンレスボトルの資源循環モデル構築を検証

ステンレスボトルを繰り返し使うことを通じて、持続可能な社会を目指すライフスタイルを 2006 年から提案し続けてきた象印マホービン株式会社は、動静脈連携と公民連携でステンレスボトルの資源循環の仕組みの構築を探るべく、実証実験を実施。



▲ステンレスボトル回収ボックス設置に参加する小学校



- * 2024 年 9 月～11 月の 3 か月間、大阪府大東市および大栄環境株式会社と連携し、大東市内の小中学校 18 校にて使用済みのステンレスボトル（水筒）を回収し、新たな資源循環モデルの創出に向けた実証実験を実施。
- * 参加校には期間内のうち 1 か月間、校内に回収ボックスを設置。メーカーを問わず家庭で使われなくなったステンレスボトルを集め、世の中に活用されるリサイクル原料として再生し活用していく。

背景・きっかけ

- * 象印マホービンは 2006 年から「マイボトルのある暮らし」を通して SDGs に掲げられている「つくる責任つかう責任」「海の豊かさを守ろう」にアプローチしてきた。主力製品の一つであるステンレスボトルは繰り返し利用することで環境負荷を低減させる有効な製品である一方、廃棄されたステンレスボトルは多くの場合鉄屑（鉄スクラップ）としての再利用に留まり、資源としてのリサイクルがなされていない状況だった。
- * その状況に対し、環境創造企業を掲げる大栄環境株式会社と連携しステンレスボトルの回収から資源循環させる仕組みの検討を行い、象印マホービンが工場を置く大東市がプラスチックごみゼロ宣言を掲げていることから同市の教育委員会と学校を巻き込んだ回収の仕組みについての実証実験を行うために協議を始めた。

取組のポイント

▶回収後の動静連携を図る一方、小中学校ではステンレスボトル回収を通じた環境学習機会を提供

- * 回収されたステンレスボトルは一度象印マホービンに戻り、回収内容の分析や調査を行う。その後、コーティング等の適切な除去を施せる、有価物としてステンレス、ミックスプラスチックの解体・選別ができる技術を持つ近畿管内のリサイクル業者に送り、最終的には市場で使われる再生ステンレスとして世の中に返す。
- * 回収されたステンレスボトルに付属する栓やコップなどの PP 素材は連携先の機械選別にて PP 素材として回収し、外部に販売、その後ペレット加工のうえ、マテリアルリサイクルされる予定。
- * 回収ボックスを設置する市内小中学校では環境について考えるきっかけにする。ステンレスボトル回収を通じて教育面でも資源循環の機運向上に貢献。



今後の展望

▶資源循環システムの検証・分析を経てさらなる環境問題への貢献を進める

- * 今回の実証実験によるステンレスボトルの回収状況、分析調査により、今後の取組方向性についての検討材料とする。
- * 資源循環の取組を進める上ではスケールメリットも重要な要素であり、他社との協業を含む横断的な取組を発展させる必要性も少なからず感じている。
- * プラスチックのリサイクルにも知見を深めながら、マイボトル啓蒙活動にみられるリユース・リデュースも含めトータルで環境問題への解決策の取組を進めていく。
- * 中期経営計画では、環境配慮型プラスチックおよび再生材について、2030 年にプラスチック総使用量の 20% 以上に使用することを目標としている。

参考ページ

象印マホービンウェブサイト

本取組み紹介ページ (<https://www.zojirushi.co.jp/corp/sustainable-action/environment/20250108.html>)

象印マホービンウェブサイト IR ページ (<https://www.zojirushi.co.jp/ir/policy/plan.html>)

大栄環境グループウェブサイト (<https://www.dinsgr.co.jp/news/pdf/release20241105.pdf>)

企業概要

象印マホービン株式会社

所在地 大阪府大阪市北区天満一丁目 20 番 5 号

資本金 40 億 2,295 万円

事業内容 調理家電製品、生活家電製品、リビング製品の製造・販売等